

●教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行います。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っています。その意味で、本学では、倫理教育が、教育の根幹を成すこととなります。倫理教育に関しては、2年次に、必修科目として「道徳科学」の履修が義務づけられますが、その理解を深め、実践を促すには、道徳や倫理の問題を、社会的、国際的、経済的、経営的な脈絡の中で具体的に考えていく必要があります。

そこで、本学の学生たちは、それぞれの分野において、倫理的な理想や理念をどのように展開するか、正義・公正・効率などの価値をどのように実現するか、多様性をどのように受け止めるかなどを学び、その経験を通じて、卒業認定・学位授与の方針に定める3つの力（物事を公平にみる力、つながる力、実行する力）を育むよう期待されています。

1. 物事を公平にみる力

- ・幅広い教養を身につけ、多様な見方を学ぶ
- ・分析手法を理解すると同時に、その限界も学ぶ
- ・なぜ自由が責任を伴うのかなどを学ぶ
- ・部分を詳細に学ぶとともに、部分を全体の中で位置づける必要性を学ぶ

2. つながる力

- ・社会の恩恵に感謝するとともに、よき伝統を受け継ぐ必要性を学ぶ
- ・地球と自然の持続可能性を実現するための具体的方法を学ぶ
- ・倫理的自覚を促すとともに、社会や未来世代に対する責任の重さを学ぶ
- ・新たな知恵は他者に共感し他者を理解するところから生まれることを学ぶ

3. 実行する力

- ・他者や社会のために、率先して行動することの意義と必要性を学ぶ
- ・理想を社会の中で実現するための具体的方法や技能を身につける
- ・グループ・ワークなどを通じて、リーダーシップを身につける
- ・異なる発想や意見に耳を傾け、当初の理想を昇華させる知恵を学ぶ

かかる方向へと導くため、本学では、卒業認定・学位授与の方針を達成するため、教育課程を以下のとおり編成し、次のとおりの教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施するとともに、学修成果の評価を行い、教育の充実を図ることとします。

外国語学部

外国語学部は、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるため、道徳教育、初年次教育、教養教育、専門教育、教職教育、キャリア教育、学部横断型プログラムの観点を踏まえ、専攻専門科目（基礎科目、上級科目）、卒業研究科目、外国語科目を含む共通科目等により構成する教育課程を編成します。いずれの区分においても一定以上の単位数の修得を義務付けています。

外国語部部の道徳教育では、2 年次生を対象として、本学の創立者である廣池千九郎が提唱した学問「道徳科学」を必修にします。大学における道徳教育として、現代の道徳・倫理問題をめぐって理論的な考察を試み、現代社会の中で課題解決のためにどう向き合い、どう行動するのかを明らかにできるようにします。

外国語部部の初年次教育では、1 年次において「スチューデントスキル」、「スタディスキル」、「2 年次以降の学びの導入（教養教育とモラル教育）」、「自校史教育（自大学の歴史や沿革）」の 4 つの領域の定着を全クラス統一の到達目標とします。大学生・社会人として必要な知識・技術、そして責任感を身に付け、本学の建学の精神と歴史を学び、2 年次以降のより専門的な学びへつなげていくことができるようにします。

外国語部部の教養教育では、①言語、②人間理解、③比較文化と歴史、④データサイエンスと情報処理、⑤スポーツ、⑥現代社会、⑦自然と環境、⑧実務、⑨グローバル活動等からなる教育課程とし、幅広い教養を身に付け、広い視野に立って物事の公正な判断ができるようにします。人文・社会に関する英語コンテンツも提供します。また、現代社会に不可欠な情報リテラシーを身につけるため「情報リテラシー」を全員が学びます。

外国語部部の専門教育では、体系的に専門分野を学ぶことができる講義系科目を提供するとともに、1 年から 4 年までの全ての学年に少人数の演習系科目を配置することによって、きめ細かな学習サポートも併せて行います。1 年次から演習科目として基礎科目(A 群)を履修するとともに、講義科目(基礎科目(B 群))を履修して専門の基礎を学びます。3 年次からは上級科目(A 群、B 群)とともに、「専門ゼミナール」を履修、4 年次では卒業研究に全員が取り組みます。

外国語部部の教職教育では、「教育職員免許法」に基づいた課程を設置し、中学校教諭と高等学校教諭の免許取得が可能です。教科に関する科目として「英語」の免許状が取得可能な科目を配置しています。

外国語部部のキャリア教育では、実務に関する科目としてキャリア教育の科目を配置し、建学の理念である「知徳一体」を学び、自身の将来を考え行動することを実践することによって、どのような仕事に就いても必要とされる社会的及び職業的自立を図るための能力を身に付けます。3 年次からは、専攻の専門分野の学修を通して修得した専門的な知識や経験の社会的活用を視野に、実践力を身に付けられるようにします。

○英語コミュニケーション専攻

英語学・英語教育・コミュニケーション学を3つの柱として構成されたカリキュラムを学ぶことができますようにします。

1年次及び2年次に週6コマ分の演習(基礎科目(A群))を課し徹底的に鍛え、英語を用いて読み、書き、聞き、話すことができるようにします。3年次からは身に付けた英語を用いて、関連分野の研究を進めることができますようにします。

○英語・リベラルアーツ専攻

英語を通して国際的に広がる情報にアクセスし、文化・社会・歴史などの教養をグローバルな視点で理解し、発信することができるようにします。

1年次及び2年次に週6コマ分の演習(基礎科目(A群))を課し徹底的に鍛え、英語を用いて読み、書き、聞き、話すことができるようにします。3年次からは身に付けた英語を用いて、関連分野の研究を進めることができますようにします。

○ドイツ語・ドイツ文化専攻

留学プログラムを通じてコミュニケーション力と異文化能力、さらにドイツからヨーロッパへと広がる多様な価値観を学べるようにします。

1年次及び2年次に週5コマ分のドイツ語演習(基礎科目(A群))を課して能力を引き出し、ドイツ語を用いて自分について表現し伝えることができるようにします。3年次からは身に付けたドイツ語を用いて、さらに自分と世界がどのようにつながっているのか、知識とともに豊かな人間関係を構築するスキルを伸ばします。

○中国語専攻・中国語・グローバルコミュニケーション専攻

中国語圏に関する知識と、将来のビジネスシーンに対応できるスキルを学ぶことができますようにします。

1年次及び2年次に週5コマ分の演習(基礎科目(A群))を課し、発音を徹底指導して中国語修得の基礎固めをします。原則3年次に半年の留学をして語学力の徹底的なスキルアップをはかり、中国語の読み、書き、聞き、話す力を身につけます。中国語と同時に英語を4年間継続して学び続けることにより、グローバルな舞台で活躍するための地力を固めます。基礎科目(B群)の学びにより身に付けた中国語圏に関する幅広い知識を土台に、3年次から社会・経済・文化・歴史などより専門的な分野の学習ができるようにします。

○日本語・国際コミュニケーション専攻 ※2019年度入学生卒業まで

(日本人) 英語と日本語のコミュニケーション・スキルと多文化共生の方法論を学ぶことができますようにします。1年次及び2年次に週7コマ分の演習を課し、日本語を外国語的に捉え、書く、話す、考える力を身につけるとともに、英語でコミュニケーションできるようにします。また、言語、文化、文学、教育の分野について学べるようにします。3年次からは、外国語の学びを継続できるようにするとともに、関連分野の研究を進めることができますようにします。

(留学生) 日本語のコミュニケーション・スキルと多文化共生の方法論を学ぶことができますようにします。1年次に週4コマ以上、2年次に週6コマ以上の演習を課し、読み、書き、聞き、話すことができますようにします。また、コミュニケーション、言語、文化、文学、教育の分野について学べるようにします。3年次以降も、1・2年次と同量程度の関連分野の学びをすることができるようにします。"

○国際交流・国際協力専攻 ※2019年度入学生卒業まで

世界の現状を知り、コミュニケーション力を身に付け、問題解決のために行動する態度を学ぶことができますようにします。1年次及び2年次に週7コマ分の演習を課し、国際交流・国際協力分野の基礎知識を身につけるとともに、英語を用いたコミュニケーションと第2外国語による簡単なコミュニケーションができるようにします。3年次からは、関連分野の研究を進めることができますようにします。

経済学部

経済学部では、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるため、道德教育、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育、教職教育の観点を踏まえ、専攻専門科目、共通科目、キャリア科目等により構成する教育課程を編成します。いずれの区分においても一定以上の単位数の修得を義務付けています。

経済学部の道德教育では、2 年次生を対象として、本学の創立者である廣池千九郎が提唱した学問「道德科学」を必須にします。大学における道德教育として、現代の道德・倫理問題をめぐって理論的な考察を試み、現代社会の中で課題解決のためにどう向き合い、どう行動するのかを明らかにできるようにします。

経済学部の初年度教育では、大学への適応とスタディ・スキルズの習得を目的に、「基礎ゼミナール」を開講し、学生自ら学修計画の立案、主体的な学びの実践ができるようにします。全員が「基礎数学」「統計学基礎」「情報リテラシー」「情報科学」を履修し、データサイエンスの基礎を身につけるとともに、2 年次以降のより専門的な学びへとつなげることができるようにします。

経済学部の教養教育では、①外国語・コミュニケーション、②情報処理、③スポーツと健康、④自然と環境、⑤人文と社会、⑥グローバル教育等からなる教育課程とし、幅広い教養を身に付け、広い視野に立って物事の公正な判断ができるようにします。また、現代社会に不可欠な情報リテラシーを身につけるための「情報リテラシー」と「情報科学」及び、国際性の基礎となる「English Communication」を全員が学びます。

経済学部の専門教育では、体系的に専門分野を学ぶことができる講義系科目を提供するとともに、1 年から 4 年までの全ての学年に少人数の演習系科目を配置します。1 年次においては、全員が各専門分野の原論・概論を履修し、専攻の基礎を学びます。2 年次においては、専攻のコアとなる基礎演習を履修します。3・4 年次においては、「専門ゼミナール」や上級専門科目を履修し、専門知識の理解を深めます。

経済学部のキャリア教育では、1 年次より建学の理念である「知徳一体」を学び、自身の将来を考え行動することを実践することによって、どのような仕事に就いても必要とされる社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身に付けます。3 年次からは、専攻の専門分野の学修を通して修得した専門的な知識や経験の社会的活用も考え、実践する力を身に付けられるようにします。

○経済専攻

経済社会で起こる問題の本質をつかむことができる力を身に付けます。1 年次においては、経済学の基礎を学び、理解をより深めることとアカデミックスキルズの習得を目的とした演習を行います。2 年次においては、現実の経済社会の動向や構造を統計データなどに基づいて把握することによって、現実の経済社会の動向や構造と経済理論との関係性を理解することを目指します。講義内の全ての課題をグループワーク形式で取り組めるように講義がデザインされており、他者と協働する力を身につけられることも目的としています。3・4 年次においては、経済理論・経済政策・経済倫理・計量などに関する上級専門科目やゼミナールを履修し、専門知識の理解を深めます。また、特別コース（公務員コース）では、学内の特別講座の履修と提携する専門学校との連携教育プログラムによって公務員として必要な資質を身に付けます。

○グローバル人材育成専攻

多国籍の人々と国内外で経済・経営・国際問題の解決ができ、グローバル社会を生き抜くことができる力を身に付けます。1年次では、英語力の水準により2つのクラスに分かれ、経済学と経営学の基礎を学ぶとともに英語力を強化します。2年次からは英語力の水準と希望する専門分野により4つのコースに分かれ、グループワーク形式の学習により、グローバル社会の多面的な理解に加え、協働する力とプレゼンテーション力も身につけます。1～2年次に海外で行われる演習は原則全員履修。海外協定校での短期長期の語学・専門留学を2年次の2学期から配置しています。3～4年次では、ゼミナールや上級専門科目を履修し、グローバル人材となる専門知識と能力を身に付けます。また、特別コース（スーパーグローバルコース）は、1年次から専門科目を英語で学ぶと共に、海外留学などを通じて、グローバルな視点でグローバルに活躍できる知識と能力を身に付けます。

○経営専攻

「よき経営人」として、他者と上手く連携し、組織をマネジメントできる力を身に付けます。1年次で経営の全体像およびヒト・モノ・カネの動きについて理解を深め、1～2年次で経営学の基本的知識を修得します。3年次からは「専門ゼミナール」と深い領域の専門的内容について学ぶほか、近年重要性を増している情報を分析する能力を重点的に身につけることもできます。1年次のグループワークで他者と協働する力、2年次のレポートやプレゼンテーション課題への取り組みで読解力、論理的思考力、伝達力、3・4年次の卒業論文作成で社会で活躍するために必要な能力などが身に付くほか、これらを主体的に取り組むことで、自らを律する力やコミュニケーション能力などを習得することができます。さらに、人間力として道徳科学で自らの倫理的価値観について深く考えます。

○会計ファイナンス専攻

会計ファイナンスの本質をつかむことができる力を身に付けます。1年次において会計ファイナンス分野の基礎知識を学び、2年次においては、学んだ基礎知識に基づいて演習形式で学びます。3・4年次においては、「専門ゼミナール」や上級専門科目を履修し、金融機関や金融市場、証券市場や投資、税務や会計、ITの活用などについて論理的、実践的に学び、専門知識の理解を深めます。また、特別コースでは、専門学校との連携により、日商簿記1級・2級・会計士などの上級資格合格を目指し、さらに高い専門知識を身に付けます。

○AI・ビジネス専攻

AI技術をビジネス、金融分野に応用できる力を身に付けます。1年次においては、全員が経営、会計、AIの基礎知識を学びます。2年次においては、学んだ基礎知識に基づいて演習を行い、ビジネス・金融と情報技術のつながりも修得していきます。3・4年次においては、「専門ゼミナール」や上級専門科目を履修し、金融市場、投資理論、AI技術のビジネスへの活用などについて論理的、実践的に学び、専門知識の理解を深めます。卒業までに、全員が2つの資格取得を目指し、1年次から資格に直結する授業が豊富に準備し、幅広い資格へのサポート体制を備えています。

○スポーツビジネス専攻

スポーツビジネスを企画・運営できる力を身に付けます。1年次においては、経営の全体像と基礎的理論を理解するとともに、スポーツビジネスで必要となるスポーツ・健康に関する基礎的知識を身につけます。2年次においては、経営学のコアとなる理論を学ぶとともに、部活などの身近な題材なども用いて演習形式で学び、スポーツビジネスの現場で必要とされる知識・技能を身につけます。3・4年次においては、スポーツビジネスを企画・運営できる知識と能力を身につけます。

授業を通じて様々な資格取得を支援。授業の単位を修得することで、資格を獲得できたり、資格取得に必要な講習を免除されたりする仕組みを構築しています。"

○観光・地域創生専攻

経済学の理論を基盤に、観光と地域活性の方策を企画・運営することができる力を身に付けます。1～2年次は、経済学の基礎を学びます。国や地域の経済はどんな仕組みで動くのか、社会の見方の基盤を養います。あわせて現代の観光ビジネスの概要や、地域の課題を理解するための入門的な学習を行います。それらの知識を踏まえ、3年次からは「公共経済学」「観光経済学」「コミュニティデザイン論」など、観光や地域活性化に直結する分野を学びます。実社会の事例を教材として、成功や失敗の原因を論理的に把握していきます。

国際学部

国際学部は、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるために、国際学部では、学科専門科目、共通科目、卒業研究科目の3つの科目群を設定します。学科専門科目には基礎専門科目と上級専門科目があり、共通科目には全学共通科目と学部共通科目があります。いずれの科目群においても、一定以上の単位数の修得を義務付けています。

国際学部の学科専門科目では、各学科（専攻）の学問的専門性を身に付けるための科目群で、1・2年次科目である基礎専門科目と、3・4年次科目である上級専門科目が設けられています。このうち、各専攻のコア科目は特にA群科目として指定され、卒業要件上の必修もしくは選択必修科目となっています。

国際学部の全学共通科目は、グローバルリーダーとして活躍するために不可欠な、ある種の“知識の幅”、（専門領域の知識に偏ることのない“視野の広さ”）を身に付けるための科目です。このうち、全学共通科目としては、道徳科目、情報科目、外国語科目、キャリア科目、一般教養科目の5つが置かれています。

道徳科目は、本学の建学理念に基づく科目で、各専攻で専門性を身に付けていく際の基盤となる倫理的問題や、多様な価値との共生の重要性を学びます。情報科目と外国語科目は、多様な価値との共生を実現するための意思疎通に欠かせないツールに関する学びです。キャリア科目は、「共生」の現場としての“社会”に出ていく学生の準備・サポートをする科目としての意味を持っています。一般教養科目は、倫理性や共生の理念が生み出された背景や、その基盤となる知識に関わる科目であり、グローバルリーダーとして活躍するための視野の広さを養うための科目です。

"

国際学部の学部共通科目では、人文科学と社会科学という異質の学問領域を繋ぐという発想に立ち、観光マネジメントに関する科目や、国際協力、国際関係、文化交流に関する科目を、学部共通科目として設置。「社会科学的現実感覚を身に付けた人文系人材」および「きめ細やかな人文科学的感覚を身に付けた社会科学系人材」の育成を目指します。

他に、初年次教育科目として「スタートアップセミナー」と「基礎ゼミナール」が開講されます。「スタートアップセミナー」は、カリキュラムの全体像や履修規則の理解のほか、専門科目の理念や4年間の学びのビジョンを考える研修的オリエンテーションなども含む導入教育的授業です。また「基礎ゼミナール」は、大学で学ぶために必要な学習スキルを身に付けるための科目で、ノートテイキング技術、論述文作成、情報収集・整理、プレゼンテーションなどに関する高度で実用的な技術を学びます。

国際学部の卒業研究科目は、学生が自分の4年間の多様な学びを統合し、あたらしい成果を示すための科目です。「多様性をつなぐ」をコンセプトとした国際学部にとっては、“つなぐ学び”の集大成としての意味を持つ、もっとも重要な科目です。

○日本語学・国際コミュニケーション専攻

英語や日本語の高度な言語運用技術、日本人にとっての“自己理解の学”である「Japan Studies」、「多文化共生学」を3つの柱としたカリキュラムを設置します。英語は1・2年次に毎日1コマの演習を開講。また、「JIC アカデミックスキルズ」という授業を3科目開講し、日常語である日本語を使った、実用性の高いプロフェッショナルな運用技術を徹底的に身に付けていきます。また、2年次から、Japan Studies コースと多文化共生コースの2コースを設け、より専門的な知識を体系的に学ぶことができますようにします。

○国際交流・国際協力専攻

世界の現状を知り、コミュニケーション力を身に付け、問題解決のために行動する態度を身に付けられるカリキュラムを設置します。1・2年次に毎日1コマの英語に関する演習を開講し、言語運用力を身に付けるとともに、国際交流・国際協力分野の基礎知識を学びます。3年次からは多文化共生コースと国際協力コースの2コースを設け、各領域での専門的な知識を体系的に学ぶことができます。また、「サービスマスター体験実習」や「国際ボランティア演習」「多文化共生プロジェクト」など、いわゆるPBL型授業の履修を奨励し、自ら考えて行動することができる学生を育てていきます。

○グローバルビジネス専攻

グローバルビジネスの現場で多様な文化的背景を持った人々と問題に取り組み、解決することのできる人材を育成するために、①国際共通語としての英語の運用力、②論理的な分析力、③異文化コミュニケーション力の3つの力を身に付けます。

具体的には、1年次にESS (English Summer Seminar) を通じて英語の基礎的な運用能力を養成し、2年から英語で専門科目を学ぶスタイルに移行していきます。専門科目では、経済学・経営学・社会学等を学際的に学ぶとともに、「GBS」「グローバル経営」「グローバルファイナンス・AI」「アジア太平洋ビジネス」の4コースに分かれ、特定の分野の専門知識を学ぶことで、論理的な分析力を養っていきます。また、これと並行してグローバルリーダーシップを養うための科目群を履修します。上記一連の科目の体系的な学習を通じて、異文化コミュニケーション力を身につけていきます。

本学では、演習や講義の形式にかかわらず、プレゼンテーション、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、フィールド・ワーク等の「アクティブ・ラーニング」の手法を効果的に取り入れます。PBLを通じて、学生自らが問題・課題を発見し、立ち上げられたプロジェクトを実践する力を身に付けます。

学修成果の評価は、GPA 制度、「汎用的能力」調査、学生の学習時間調査等を運用することにより行います。成績評価は GPA 制度の運用及びFDの取り組みにより厳格さを担保します。成績は6段階（S・A・B・C・D・E）に区分し、履修者30名以上のクラスはSからCの合格者の割合を決めた相対評価を適用します。

<大学院>

言語教育研究科

ディプロマ・ポリシーに示した知識・能力の習得のため、「日本語教育」、「日本語学ほか」、「研究指導」の3つのグループから成るカリキュラムを編成します。

「日本語教育」科目では、第二言語教育学・日本語教育学に関する基礎的・専門的知識を身に付けさせるとともに、それを教育実践に応用できる能力を育成します。

「日本語学ほか」科目では、言語および言語教育に関係するデータを客観的かつ多様な観点から分析できる能力を育成します。

「研究指導」では、各個人の研究課題を追究し、その結果を学術論文として社会に発信する力を身に付けさせます。

経済研究科

世界で、あるいは地域社会において、日常的に発生する諸問題に対し、高度な学識と国際的な視野、深い洞察力と問題解決能力で対処でき、かつ高い倫理意識を兼ね備えた人材を養成するのが、経済研究科の目的です。

そのため、経済学・経営学の標準的な専門科目に加え、異文化コミュニケーションや国際社会における日本の歴史と役割、経営倫理学などを学ぶ科目を設置しています。

また、英語を母国語とする者が無理なく学ぶことができるようにするため、全て英語で行われる科目を多く設置しており、こうした科目を履修するだけで修了要件を満たすことも可能です。もちろん日本語を母国語とする者もこうした科目を履修することが可能であり、英語力を向上させることや留学生との交流を深めることができます。

さらに博士課程では、研究指導担当の教員以外の教員も参加して研究成果報告を行うリサーチセミナーを定期的に行います。これにより、研究成果は多面的に検証され、博士論文としてのクオリティーが高められます。

道德教育専攻

学校教育の基盤をなすものとして道德教育を捉え、深い学識、高い技能、効果的な実習による、理論と実践の往還を成し得る高度な指導力を身につけた教員の養成と、学校や教員に新たな知見を提供し得る専門的な学識を備えた研究者の育成を目的として、教育職員免許状取得者を前提に、学士課程教育によって培われた教職の基礎的な資質・能力の発展、あるいは教育現場での経験によって育まれた指導力を向上させる方針に基づき、科目群を配置してカリキュラムを編成しています。